

## 6月の高温に対する農作物の技術対策

令和6年6月10日

農林水産部担い手支援課

令和6年6月10日14時30分に、気象庁から高温に関する早期天候情報が発表されました。発表内容によると、関東甲信地方は6月16日ごろから、気温が平年よりかなり高くなる（5日間平均気温平年差+1.9℃以上）ことが見込まれます。

また、向こう3か月の気温も全国的に高い見込みとなっており、本年も猛暑となることが予想されます。農作物への影響も懸念されることから、以下の技術対策を参考に、暑さへの備えを進めてください。

なお、作業時は熱中症等に十分留意し、こまめな水分補給と休憩、暑い時間帯の作業は避ける等の対策の実施を併せてお願いいたします。

### 1 施設園芸

- ・施設栽培では妻面・側面を開放するとともに、天窗の開閉や換気扇等を活用した換気を積極的に行う。
- ・作物の光要求性に応じて、遮光資材等を使用し、施設内の温度上昇を抑制する。
- ・遮光資材は、果実の日焼けや葉やけの防止にも有効である。
- ・循環扇は局所的な高温・高湿空気の滞留を防ぎ、室内温度・湿度の均一化が図られるとともに、作業快適性の向上が期待される。

### 2 露地野菜

- ・葉茎菜類や果菜類のトンネル栽培では、遮光資材の塗布等により葉焼けや果実の日焼けを防止する。

### 3 果樹

- ・高温に加え少雨条件が続くと、樹勢や果実肥大に影響する恐れがあるため、刈草やわらマルチにより、土壌の乾燥を防止する。特に育成中の苗木は根量が少ないため干ばつによる生育障害を受けやすいので、地表面が乾いているようであれば、こまめにかん水を行う。
- ・日射量が多くなるため、稲わら等を利用し主枝の日焼け対策を実施する。特に苗木

では、対策を徹底する。

- ・害虫については、高温・乾燥が続くとハダニ類が急増しやすくなるため、常時観察し、発生が認められた場合は初期防除を徹底する。

#### 4 花き

- ・切り花については、朝夕の気温の低い時間に採花し、常温で長時間放置しない。
- ・前処理剤を使用し、品質維持に努める。

#### 5 畜産

##### (1) 家畜

- ・飼育密度の緩和、換気扇や扇風機による畜体等への送風や散水・散霧を行い、家畜の体感温度の低下に努める。
- ・寒冷紗やよしずによる日除け、屋根裏・壁・床への断熱材の設置、屋根への消石灰の塗布等により、畜舎環境の改善に努める。
- ・良質で消化率の高い飼料の給与、ビタミンやミネラルの追給及び清浄で冷たい水の給与に努める。
- ・観察の頻度を増加させることにより、健康悪化の兆候がないか等、家畜の健康状態をよく把握し、快適性に配慮した飼養管理に努める。

##### (2) 飼料作物

- ・今後高温が続くことにより、例年より作業時期が早まる可能性があることを考慮し、準備を進める。